かながスポ
☎045-227-0170 FAX045-227-0167
E-mail: sports@kanagawa-np.co.jp

かながわ駅伝

横須賀市 悲願の初V

厚い選手層で強豪破る

県内30市町代表のランナーがたすきをつなぐ「第72回市町村対抗かながわ駅伝」（県、神奈川陸上競技協会、神奈川新聞社など主催、横浜薬科大特別協賛）は11日、秦野市カルチャーパークから相模原市緑区の県立相模湖公園までの7区間、51.5㌔のコースで行われ、横須賀市が2時間38分42秒で初の栄冠をつかんだ。2位は横浜市、3位には川崎市が入った。

横須賀市は、2区滋野（星槎道都大）、3区内田（法政二高）らの好走で総合2位に浮上。7区秋澤（神奈川大）がトップに立ち、そのまま押し切った。

横浜市は各区で安定して上位を走ったが、3連覇には届かなかった。町村対抗は、愛川町が2時間47分9秒で2年連続8度目の優勝を飾った。

県内のケーブルテレビ局が、24日午後6時からダイジェスト放送する。

▽成績（1横須賀市（濱口、滋野、内田、菅下、横山、佐藤、秋澤）2時間38分42秒②横浜市（内田、宮尾、兒玉、リンスィー、佐々岡、稲毛、谷澤）2時間39分25秒③川崎市（牧野、橋本、黒田、廣田、須田、宮坂、山城）2時間39分37秒④藤沢市（柏木、三宅、大谷、船橋、赤平、槻澤、藤江）2時間40分45秒⑤秦野市（曽我、桐山、松田、古高、指宿、原、須藤）2時間41分38秒⑥茅ケ崎市（鈴木、力石、石川、小谷、藪、石原、大西）2時間42分38秒⑦小田原市2時間42分47秒⑧厚木市2時間42分43秒⑨相模原市2時間45分30秒伊勢原市2時間46分19秒⑩平塚市2時間47分⑪愛川町2時間47分9秒⑫座間市2時間47分⑬箱根町2時間48分⑭葉山町2時間50分46秒⑮鎌倉市2時間49分58秒⑯綾瀬市2時間51分21秒⑰逗子市2時間54分3秒⑱大磯町2時間55分35秒⑲和光市2時間55分2秒⑳海老名市2時間57分41秒㉑南足柄市2時間58分57秒㉒松田町3時間5分49秒㉓大井町3時間1分18秒㉔開成町2時間7分58秒㉕山北町3時間11分3秒㉖寒川町3時間12分26秒※三浦市、二宮町は欠出場権）

【区間1位記録】

1区	（3.0㌔）	安澤　駿空	（逗子市・久木中）	8分59秒
2区	（9.7㌔）	橋本　龍一	（川崎市・順大）	27分48秒
3区	（8.2㌔）	内田　隼太	（横須賀市・法政二高）	24分49秒
4区	（2.7㌔）	西山未奈美	（相模原市・白鵬女子高）	8分32秒
5区	（7.2㌔）	須田　大貴	（川崎市・法大）	22分23秒
6区	（10.7㌔）	原　由幸	（秦野市・星槎道都大）	33分45秒
7区	（10.0㌔）	秋澤　啓尚	（横須賀市・神奈川大）	29分40秒

上位3チームが19秒以内の僅差で中継した最終7区。勝負の行方はアンカーに託された。

横須賀市が2位でたすきを受けたのは、1月の箱根駅伝で8区6位の力走を見せた神奈川大・秋澤。その実力者でさえ「箱根駅伝を走るより緊張していた」と言うしびれる展開だった。

本領発揮は1㌔手前。秋澤はトップの横浜市をとらえると、下りを利用して突き放し、区間1位でゴールに飛び込んだ。小学3年以来という競技人生で初の優勝テープを切り、「今までで何よりもうれしい」と屈託なく喜んだ。

横浜、川崎市など強豪チームを抑えても手ぎ取った悲願の栄冠は、決して偶然ではない。大学生を中心に、7区中4人が5000㍍14分台前半の好タイムを有する。

2区滋野（星槎道都大）は、普段は地元を離れている分、「横須賀市代表として少しでも貢献したい」と区間2位の好走でチームを9位から4位まで押し上げ、法政二高の3区内田に継いだ。

内田は腕時計のストップウオッチを押し損ねて走りだしたが、ハプニングにも「最初は突っ込んだ。その後は粘るだけ。逆に押さないでうまくいきましたね」と何のその。意に介さず区間1位の快走を披露した。

各ランナーがトップから30秒以内の「射程圏内」をキープしてきたことが選手層の厚さを物語る。秋澤は来年の連覇を念頭に置きながら、地域の競技普及にも思いを寄せる。「横須賀で陸上競技をしている小中学生世代が今回の優勝で『自分もやりたい』と思ってもらえたらうれしい」

（織田　匠）

初優勝を果たし、手を上げてゴールする横須賀市のアンカー秋澤啓尚＝県立相模湖公園（立石　祐志写す）

若い力台頭 今後に期待

横浜市 3連覇ならず

若さと勢いで3連覇を狙った横浜市だったが、偉業達成の夢はあと一歩のところでついえた。

5区を終え、トップと1分10秒差の2位。6区の主将稲毛（プレス工業）は「社会人として自分が引っ張っていく」と徐々に差を詰め、後半の下り坂でスパートをかけて首位に躍り出た。だが、アンカー谷澤（金沢高）が箱根路を経験した横須賀市の秋澤にかわされ、43秒差の2位に終わった。

谷澤は、1月の都道府県対抗駅伝で神奈川の7位初入賞に貢献した有望株だが、「まだまだ体力に課題がある。大学生にはどんなに調子が良くても勝てなかった」と悔しがる。キャプテンは「もっと差をつけて楽をさせてあげられれば…」と高校生をかばった。

今大会は稲毛を除く6人が学生のフレッシュな顔ぶれ。区間賞獲得はならなかったが、1区内田（大綱中）が区間3位、4区リンスィー（金沢高）は区間2位に輝くなど若い力が躍動した。

7人全員が総合3位以内をキープし続けたことも、高いチーム力の証しだ。前回区間新を記録した2区宮尾（専大）は「ベテランが頑張らなければいけないところを、中高生がよくやってくれた。必ずその先につながるはず」と来年以降の成長に期待していた。

（倉住　亮多）

2位でゴールする横浜市の谷澤竜弥

橋本14人抜きの激走

○…川崎市は前回に並ぶ3位でフィニッシュ。1月の箱根駅伝でも好走した2区橋本（順大）が光った。17位でたすきを受け取り、「展開は考えずになんとか先頭に立とう」と区間賞の走りで圧巻の14人抜き。一気に3位まで順位を押し上げた。

大学1年生のアンカー山城（国学院大）は「優勝に貢献したかったが残念。橋本さんのように走力をつけたい」と先輩をたたえる。法政二高出身の2年生は「全員が力を出し切ってつかんだ3位。来年は優勝できるようにもっと頑張りたい」と2015年以来の頂点を見据えた。

愛川町2年連続栄冠

○…町村対抗は、愛川町が2年連続の頂点に立った。1区は全体で20位の出だしだったが、2区生方（相州健児）3区吉川（山梨学院大）がそれぞれ区間11位、10位の力走でチームを15位まで押し上げた。総合順位は前回より二つ上げ11位と躍進した。

アンカーの刈田は、1月の箱根駅伝で拓大の4年ぶりシード奪回に貢献した。今春の卒業後は県外に就職し、競技も終える。周囲には引き留める人もいたが、「ずっと箱根駅伝を目標にしてきたので、気持ちよく終われる」と未練はない。

長年、郷土のためにも尽くしてきた地元の星は「愛川町は伸びてきている若い選手もいるので、全然心配していない」と笑顔で締めくくった。